

CONTENTS

- 公認会計士・衆議院議員のご紹介
- 活動報告
  - 「おだち源幸を囲む公認会計士の会  
定時総会」開催
  - 「むたい俊介君を励ます会」開催
  - 「中西けんじを囲む公認会計士の会  
通常総会」開催
  - 「若松かねしげCPA元気アップ隊」  
「武見敬三を囲む公認会計士の会」  
設立総会開催のご案内
- 談話室

## 公認会計士、衆議院議員のご紹介

第2回

# 新しいリレーションシップ誕生!

今回ご紹介する武村議員と古賀議員は、昨年12月に行われた第46回衆議院議員選挙において初当選された公認会計士・会計士補の国会議員です。選挙という厳しい戦いに挑み、見事議員バッジを手にした両議員に、志は何か、強みは何か、木下幹事長が伺いました。

### 強い日本経済を取り戻す!

武村展英 衆議院議員(自由民主党)

木下 武村議員はいつ頃から政治家になろうと思われたのですか。

武村 大学4年のときから衆議院議員の政策秘書をしていまして、二十代はずっと永田町で過ごしていました。28歳のときに私が勤めていた議員が落選して失職し、それから公認会計士試験を受けて三十代は監査法人で過ごしたんです。ですからもともと政治志向はあって、秘書をやっているうちに自分でもやってみたいと思うようになりました。

木下 監査法人には何年いらっしゃったのですか。

武村 7年間です。入所一年目から公認会計士になりましたので、公認会計士を7年間やっています。

木下 武村議員は「強い日本経済を取り戻す」というスローガンを上げていらっしゃいます。そのためには何が重要だとお考えですか。

武村 「財政再建」と「経済再生」です。財政再建は、税収をあげること、歳出削減、それか

ら増税の三つを同時に進める必要があります。いまの危機的な財政の状況をどう脱却していくのか、将来の道筋を明らかにしないと経済は安定して成長していかないと思います。

経済再生についてはまずデフレからの脱却。私は学生のときから日銀の金融政策をずっと追ってきて、通常の経済理論とは異なる日銀理論が日本経済を悪い方向に向かわせているのではないかと20年近く前から思っていました。徐々に量的緩和もやりましたが、十分ではなかったと思います。

木下 私も20年間アメリカにいて、アメリカから日本を見ていると需給のバランスが取れていないのが明らかなんです。アメリカと



ヨーロッパがどんどん量的緩和をして円は少ししか緩和しないわけですから、それは円高になるのは当然でした。安倍政権で日銀も政策転換して良かったと思います。これからは实体经济に結びつけていく施策が必要ですね。

武村 公共事業をやって呼び水にするのはいいですけど、永遠に続けることはできませんから、新しい施策が必要です。その中で私はリスクマネーの供給がいちばん重要だと思います。簡単に言うとファンドです。企業再生支援機構も一つのファンドですが、今回、



武村 展英 (たけむらのぶひで) 衆議院議員

昭和47年滋賀県生まれ。慶應義塾大学商学部卒。国家公務員採用I種合格。平成15年-22年新日本有限責任監査法人。建設業、航空産業、政府系金融機関等の会計監査に従事。国際公認投資アナリスト、農業経営アドバイザー。現在、衆議院経済産業委員会委員。

他にもいくつか出ていて、海外需要開拓支援機構の俗にクールジャパン法案と言われるものが、今度私が所属する衆議院の経済産業委員会にかけられます。こうしたところにリスクマネーの供給を進める。それも政府だけではなく民間にも出資してもらうことが大事です。

木下 官民ファンドですね。

武村 そうです。民間がリスクをとれば経営もしっかりしてきますので、産官連携で投資して新しい産業をつくっていくことが重要だと思います。あと私が進めたいのは農業の輸出です。私は農林漁業金融公庫(現日本政策金融公庫農林水産事業部)の監査をずっとやっていたので思い入れが強いんですよ。こんなこと言うと怒られますが、TPP問題とは切り離して農業を輸出産業にしたいですね。

木下 それは私も賛成です。TPPに反対しても将来はないですからね。

武村 具体的な事例としては、神戸市とOOCLジャパンという船会社が共同で個人でも輸出できる仕組みを作りました。手数料が5~7%ぐらいで物流の流れも整っているし、クレーム処理も現地でサポートします。農家の方は作ることに一杯で、どうニーズに対応していくかという発想がまだまだないんです。ですから、そういう仕組みを利用して海外に出て行く、特にアジアの富裕層に打って出る支援をしたいと思っています。

木下 監査の経験を活かして武村議員ならではの施策ができそうですね。

武村 内閣提出法案を与党の立場からチェックをする役割が多いですが、新人議員としても仕事はしっかりしていきたいので、議員立法をたくさん出していきたいと思っています。

木下 具体的なプランがありますか。

武村 いまのところ事務局を3つ預かるこ

とになっています。一つは地元、滋賀県の琵琶湖再生法です。琵琶湖の水質が改善されていけませんので、再生計画を作って財政支援ができる仕組みを作ります。もう一つは金融機関の休眠口座というのがあって、いまは10年経過した時点で雑益に入れていますが、イギリスや韓国ではそうした金額を貧困対策に使う仕組みを作っているんです。

木下 それはいいですね。100円とか1000円とか本人も忘れてしまっているものがたくさんありますよね。

武村 そうなんです。それを公共の施策に使えるように、任期のあいだに法案化したいと思っています。あとは年金記録問題の後始末です。年金記録問題も休眠口座の話も、実務的な面では公認会計士がとても役立つと思うんですよ。

木下 いろいろなプランをお持ちで我々にもお手伝いできることがありそうです。ぜひ一緒に進めていきましょう。

### 20年先、30年先の日本のために

古賀 篤 衆議院議員(自由民主党)

木下 古賀議員は財務省職員から国会議員に転向されたわけですが、財務省と国会の仕事ではどのように違いますか。

古賀 大きくは変わりません。行政と立法では立場は違いますが、国のために真摯に仕事に取り組んでいるのは同じです。

木下 政治家になろうと思われたのはどういうきっかけですか。

古賀 日本の現状をなんとかしたいという

想いでした。政権交代があって民主党が政権与党になり、その中で政治が低迷し、それにひきずられるように行政も停滞していきました。人口減少、少子高齢化が急速に進展する日本を考えると、残された期間は短く、政治家がもっと日本の将来に責任を持たないといけません。そういう政治家が出てくるのを期待して待つのではなくて、自分がやってみよう、そういう考えでした。

木下 東大出身のエリートコースを捨てるのはすごい決心だったと思います。

古賀 私に限らず、危機感や問題意識を持っている国家公務員は多いと思います。ただ、家族や仕事の関係で踏み切るに至らないのですが、私は15年間財務省につとめて、年齢的にも40歳という人生の中間地点にさしかかって、残りの人生をかけるに値する仕事だと決断しました。

木下 古賀議員が理念で掲げる「四つの覚悟」の中に「経済・産業の発展のために」とあります。安倍政権の中で必要な成長政策は何だと思えますか。

古賀 短期的には財政出動を行ったり、デ



古賀 篤 (こがあつし) 衆議院議員

フレ対応で金融政策を打つことですが、それだけでは長続きしませんので、経済や産業の構造を見直すことが大事です。たとえば、経済成長の中で三次産業をどう発展させていくとか、農業の長期的な発展のためにどういった政策を打っていくかということを根本から考えないといけません。これまで、政権交代で政策が大きく変わり、経済発展につながる政策をうておらず、国力の向上や経済の発展のため長期的な戦略が必要です。

私を含めて若い一回生議員が多く、日本の発展のためにどうしたらいいんだろうと話し合っており、非常に良い状況になってきていると思います。

木下 自民党のなかでも若い人のパワーが期待されているということですね。

古賀 政治家が日本の20年先、30年先を考えて今から手を打っていくことが、経済でも他の分野でも大事ではないかと思えます。

木下 公認会計士の20年後に対しても

我々は危機感を持っています。大学で会計を学ぶ人が少なくなり、公認会計士試験を受ける人も3割減です。会計を学んでもしょうがないということになると、公認会計士がどうのというよりも会計がわからない企業トップが多くなり、それで国際的な競争に打ち勝っていきけるのだろうかと不安になります。この現状をどのように思われますか。

古賀 私が金融庁在籍時、会計士の就職難が大きな検討課題となっていました。就職のためだけに資格を取ろうとするので、会計を学ぶ人が少なくなっているのではないのでしょうか。会計士は監査法人や会計事務所に必ずしも就職する必要はなくて、別の分野でも会計士の資格を持っているということでもいいんじゃないかと思えます。

木下 古賀議員は法学部ですが、なぜ会計士試験を受けようと思われたのですか。

古賀 私は、高校時代のように受験のための勉強ではなく、大学時代は、授業だけでなく、自分が好きなことを勉強しようと、図書館

に行っている本を読みました。そのとき会計の本を見つけて、「あ、これ面白いな」と思いました。数学の世界では1+1は必ず2ですが、会計の世界における数字の意味は、考え方や処理方法によって変るし、それがすごく面白く感じました。

木下 就職のために勉強したのではないのですか。

古賀 勉強の成果を試すつもりで受験しました。会計士試験についてもっと広い視野で勉強することが大事だと思います。会計は社会人として必要な知識ですから、学問の一つとして教育の中に体系づけられないですね。

確かに試験を受けるのは一苦勞であり、特に社会人の方は大変だと思います。資格試験としてのレベルの維持は必要ですが、簿記の試験のように能力の程度を表す試験があっても良いかもしれませんね。

木下 なるほど。私も監査法人だけでなく企業内公認会計士も増やして、いわゆる会

計プロフェッションの流動化も必要だと思っています。試験制度の見直しも考えていますので、今後ともご協力をお願いします。



古賀 篤 衆議院議員

昭和47年福岡市生まれ。東京大学法学部卒（大学在学中に公認会計士試験合格、会計士補）。平成9年大蔵省入省。主計局を中心に大臣官房、国税庁等に勤務。経済産業省、内閣府、金融庁に転出。平成24年財務省を退職し、同年12月衆議院議員、初当選。現在、衆議院法務委員会委員。

## 活動報告

### 「おだち源幸を囲む公認会計士の会 定時総会」 開催される

平成25年3月9日

「おだち源幸を囲む公認会計士の会」第2回定時総会がシティプラザ大阪にて開催され、公認会計士を中心に65名が出席した。尾立源幸議員は、民主党所属の公認会計士議員（参議院大阪府選挙区：当選2回）で、現在、財務金融委員会筆頭理事、決算委員会委員をはじめとして、民主党の要職に就任している。

総会では活動報告及び収支報告、平成25年度活動計画（案）、役員改選（案）が提案され、原案どおりに承認された。



尾立議員の国政報告では、北方領土問題（日ロ平和条約の締結に向けては領土問題の解決が最後の条件となる）、不正リスク対応基準、平成25年度予算の問題点（「公共事業の急増と復興への影響」、「財政規律の喪失」、「一括交付金（地域自

主戦略交付金）の廃止」と平成24年度補正予算フレーム等についてご講演いただいた。

また懇親会には、参議院議員梅村さとし氏（参議院大阪府選挙区）からご祝辞をいただいた。

### 「中西けんじを囲む公認会計士の会 通常総会」 開催される

平成25年3月26日



横浜市の崎陽軒本店で、「中西けんじを囲む公認会計士の会」第1回通常総会が開催され、公認会計士55名が出席した。中西議員（み

んなの党）は、神奈川県選出の参議院議員で、財政金融委員会及び予算委員会等に所属、党では政策調査会筆頭副会長に就任している。

通常総会では、この1年間における会務及び会計について報告があった。

その後、国政報告を行った中西議員からは、自民党が提唱するアベノミクスについての問題点が挙げられ



た。また、中西議員は、現在開催中の参議院財政金融委員会では党を代表して質問に立っており、本日も麻生財務大臣に対し、財政運営方針に関連する成長シナリ

### 「むたい俊介君を励ます会」 開催される

平成25年3月12日

務台俊介代議士は昨年の衆議院選挙で長野2区より当選した自民党所属の1年生議員である。務台議員は東京大学法学部を卒業後、昭和55年に自治省に入省し、その後総務省一筋で平成20年まで要職に就いてきた経験を有する。その後、衆議院選挙に挑戦するが、1回目は辛酸を舐め、昨年の選挙で漸く花が咲いたという異色の苦勞人議員でもある。

総務省の経験を通じた幅広い人脈もあることから、3月12日に開催された「むた



い俊介君を励ます会」には350名もの支援者が集まり、1年生議員とは思えない活気ある励ます会になった。当日は麻生太郎副総理、石破茂幹事長、谷垣禎一法務大

臣、高市早苗政調会長をはじめ、公認会計士を含む各方面から多くの方々も参集し、務台議員に対する期待の大きさを示した素晴らしい励ます会であった。

### 議員を囲む公認会計士の会 設立総会開催のご案内

#### 「若松かねしげCPA元気アップ隊」設立総会

若松謙維 元衆議院議員（公明党、公認会計士）  
日時：5月24日（金）18時30分  
場所：ホテルルポール麹町 会費：7千円

#### 「武見敬三を囲む公認会計士の会」設立総会

武見敬三 参議院議員（自民党）  
日時：5月28日（火）18時30分  
場所：アルカディア市ヶ谷 会費：5千円

:: お問合せ先 :: 日本公認会計士政治連盟事務局  
03-3515-1155

## 談話室

タクシーに乗るたびに「景気は良くなっていますか?」と聞く。タクシーの運転手の答えは勿論ひとつではない。景気が確実によくなっていると感じているタクシーの運転手もいれば、全く景気が上向いていないと感じられないとする運転手もいる。ただ、総じて「景気が良くなった実感がまだない」という意見が大半である。マスメディアの報道によればアベノミ

クスの成果で景気は良くなっているはずなのにタクシーの運転手は実感していないという。

商製品の生産、販売など金銭のやりとりを伴う経済活動である実体経済を計測する方法は様々ある。経済の実質成長率を用いて実体経済を推し量る方法も一つ、消費者の購買実績を計測するののも一つの方法、一般的には国内総生産から物価変動の影響を除いた実質国内総生産により示される。

しかし、本当の意味での経済の実態はそのような計数から示されるものではなく、一般国民の消費動

向、消費意欲、更には企業の投資動向や意欲により明確に表されるものである。昨年末、自民党が政権を奪還、安倍政権が誕生した当時は「経済は気である」と言われていた。国民の気が企業の気が景気を良くするということだ。ただ、気だけでは実質の経済が良くなるには限界がある。具体的に国民の消費行動や企業の投資行動が伴わなければならない。

日銀の新総裁である黒田総裁はアベノミクスを支えることができる限りの方法を用いて施策を行う、大胆な金融緩和も行うという。これらの効果はいつ具体的

に表れて日本の実体経済の上昇が引き起こされるのかはまだ不明である。しかし、ひとつひとつ具体的な政策を提示し実行することにより日本経済は必ず上向いてくると期待される。

タクシーの運転手が言うとおりでまだまだ実体経済は良くなっていないのかもしれない。ただ、大半のタクシーの運転手が言うとおりタクシーの乗客の顔色が明るい、街全体が何となく明るい、ということも事実であり好景気はじわりじわり我々に近づいていることは間違いのない。